令和２年度　福島県立郡山東高等学校　　令和２年１０月２９日
進路だより　６号　　発行　郡山東高校進路指導部

共通テストまで80日

がんばれ東高3年生！

ついに共通テストまで８０日となりました（１０月２８日現在）。１０月からは、毎週のように模試が続いているので、受験生にとっては心身共に最もきつい時期と言えます。不安や焦りを感じている人も増えているのではないでしょうか。時間はまだたくさん残されていますから、今は思うような結果が出なくても、絶対にあきらめないでください。あなたの今のがんばりは、少し遅れて、数字になって現れてきます。今は我慢の時間です。適度な休息をとりつつ、着実に前進しましょう。

■共通テスト80日前の戦い方

残り８０日といって、特別なことをする必要はありません。まず、学校の教材と模試を使った復習に力を注ぐべきです。そして、残り時間を有効に使って弱点強化に向けて行動しましょう。

1　模試は次回までにしっかり復習せよ

模試復習は受験勉強の基本であり最高の勉強法

模試は、受験後にしっかりした復習をしてこそ価値があります。受けただけで放置したのでは、何の意味もありません。特に、正解率が低かった問題に関しては、再度時間をかけて取り組み、理解を完全なものにしておきましょう。また、分野別、設問別の得点率をよく分析し、どこが自分の失点のポイントになっているのか把握しておきましょう。そこが最重要の強化ポイントになるはずで、そこを強化することにより、総合点を上げることが可能になります。

2　苦手分野は逃げずに強化せよ

克服に向けて、今すぐ行動を起こせ

まだ８０日も残されているのに、苦手分野から逃げている場合ではありません！今すぐ、克服に向けて行動をおこすべきです。８０日もの時間があれば、十分可能です。苦手と分かっていて何も手を打たないでいたら、後にどれだけ後悔することか！気になっているところは、すぐに克服してすっきりしましょう。自分一人で困っていないで、東高の先生方を有効に活用すべきです。そのために先生方はいるのです。

❀２年生へ告ぐ！

行動開始の時が来た

― 全国的に２年秋から受験体制に突入する ―

２年生は「修学旅行」をもって高校生活も一区切りとなります。いよいよ各自の進路目標に向かって行動を開始する時間が始まります。全国の進学校では、２年秋から本格的な受験体制に移行します。ぜひ、本校生もこの動きに乗り遅れないようにしてほしいと思います。現在、掲げている第一志望の大学に現役で合格していく人の多くは、２年のこの時期から本格的な勉強を始めていく人です。

☆3年夏までにすべきこと

英数国の基礎・基本を固める

1　『3教科バランス』の良い者が目標に近づく

３年生の夏までは、「英数国」の３教科を重点的に強化していくのが標準的な勉強法です。この３教科は、大学入試での配点が高く、内容も豊富なので、時間をかけて勉強しないと実力を高めることが難しいという特徴があります。３年生から始めても、目標点まで伸ばしきることができずに終わる人がたくさんいます。ぜひ、２年生のうちから、本格的な勉強を始めましょう。

また、最終的に志望大に合格していく人は、英数国３教科の中に極端な苦手教科を持っていないという共通点があります。文系なら「英・国」、理系なら「数・英」の２教科の組合せを得意にできるとかなり有利になります。

2　日々の授業は受験に直結する

共通テストの「英数国」は、２年次までに学んだ内容が出題の中心となります。３年次には、問題演習を中心に復習を進めていくことになりますが、３年夏までに基礎を固めておかないと、実戦的な問題演習を行うことができません。まずは、現在の授業とその予習・復習、課題や考査の反省などを大事にしましょう。それが、立派な受験勉強となり、大学受験に直結していくのです。

3　理・社はテストの前後を大事にする

今後の２年生の模試は、「理社」を加えた「５教科型」になりますが、あくまで、家庭学習は、前記のように、「英数国」の強化を最優先にすべきです。しかし、現実として、理社の勉強を３年から始めたのでは遅いのも事実です。特に、「理系の理科２科目（物理＋化学、生物＋化学）」と「文系の社会（特に日本史Ｂ、世界史Ｂ）」については、最終的に、共通テストだけでなく、国公立大の二次試験や私大入試で大事な勝負科目となりますから、２年次には「基礎づくり」をしておく必要があります。ゆえに、今後の考査や模試を、理社の復習の目標と定めて、計画的に進めれば３年までに基礎づくりができて効果的です。

特集　大学入試に関するQ＆A②　私立大,推薦･総合型編

今回は、私立大入試と推薦型選抜と総合型選抜について解説します。

Q：私立大学入試のしくみは？　何校受験できるのですか？

Ａ：　私立大学の「一般入試」の場合、大きく分けて以下の３つの方法があります。

① 大学独自の入試を実施する方法

② 共通テストの点数を利用する方法

③ 共通テストの点数と独自試験の合計を利用する方法

①の大学独自の試験では、３教科以下で行われることが一般的で、記述式試験に加えマークシート試験を採用する大学もあります。また、同じ学部・学科の試験を、複数回に分けて行うことも一般的です。大学の本拠地だけでなく、仙台、郡山などで**「地方受験」**を行う大学も増えています。

②の**「共通テスト利用入試」の場合、共通テストを受験するだけで、大学の合否結果が届くので、たいへん手軽な方法ですが、その分、高得点でないと合格は難しくなっています。**

また、私立大学は、日程が重ならない限り、何校でも受験可能です。ただし、**合格後は、一定期間内に、高額の費用を納入しないと合格が無効になる場合があります。**ゆえに、**受験校は、受験日と手続き締切日を考慮して計画的に選ばなくてはいけません。**

Q：「外部英語検定」を利用する入試とはどのようなものですか？

Ａ：　近年、大学入試の英語科目に替わる試験として、英検などの「外部英語検定」が注目されてきていて、外部検定を一般入試に利用する大学は年々増加しています。

外部検定の利用の方法としては、以下のようなものがあります。

①**国公立大、私立大ともに、推薦型選抜・総合型選抜や一入試の「出願資格」として用いる場合（例　英検２級以上）**

②**「得点換算」や「加点」に用いる場合**

いずれにしても、高い英語能力を持つ生徒を優遇する傾向が強まっています。
ゆえに、**本校では、受験までに「英検２級」を取得することを勧めています。**

Q：「推薦型選抜」とはどんな入試ですか？

Ａ：　**「推薦型選抜」には、「公募制」と「指定校制」の２つがあります。**「公募制」は、どこの高校からも出願でき、「指定校制」は、大学から指定された特定の高校だけが出願できます。どちらも、原則として、**「出身学校長の推薦」**が条件の１つです。また、**調査書の「評定平均（３年間の全科目の平均）」の基準**があるのが主で、**国公立大の場合、４．０以上が１つの目安になります。**

選考方法は、**国公立大の場合、「共通テストを課す方法」と「課さない方法」があります。**両者ともに、**「書類審査」**と、**「小論文・総合問題（英文読解、数・理に関する計算等を含む）、面接**が課されることが主となります。面接では、志望動機や将来の目標などを具体的に説明することが求められ、さまざまな質問に柔軟に対応できる**コミュニケーション能力**が評価されます。大学によっては、**口頭試問（英数理などの基礎学力を問う質問）**も含まれます。

Q：「総合型選抜（旧ＡＯ入試）」とはどんな入試ですか？

Ａ：　「総合型選抜」は旧「ＡＯ入試（アドミッション・オフィス入試）」で、**「自己推薦」**が基本です。

出願条件として、調査書の評定平均値の基準が無いことも多く、選考方法は調査書・志望理由書（エントリーシート）・活動報告書などの「書類審査」と「面接」が主です。また、**大学の講義やセミナーに参加しその後にレポートなどを課す**パターンや、**小論文**や**基礎学力試験**を実施したり、**国立大学の中には、共通テストの点数を利用したりする大学も増えてきています。**

Q：どのような人が「推薦・総合型選抜」に向いているのですか？

Ａ：　**学業成績の評定平均が高いほど有利**ですが、それに加え、**自分がその大学で学びたいことが明確であるということが大事です。**そして、自分の考えを、相手に的確に伝えることができる**コミュニケーション能力や表現力**が求められます。さらに、**部活動や生徒会活動、ボランティア活動、学校外での各種の研修活動などで活躍してきた人**も、自己ＰＲの材料をたくさん持っているという点で有利と言えます。**欠席の数が少ないこと**も大事です。

●「推薦・総合型選抜」はデメリットも大きいので注意

ただし、これらの試験に簡単に合格することはできないため、周到な準備が必要です。そのため、貴重な勉強時間が割かれてしまうという大きなデメリットがあります。さらに、不合格となった場合、そのショックで一般入試にも悪影響が出ることもありえます。

こうしたリスクを伴うため、全員に勧められるものではありません。**自分にとって「有利な試験であると判断でき、多少のことではくじけない精神的な強さを持つ人**ならば、挑戦する価値は大きいと言えます。

Q：「推薦・総合型選抜」の重要性が増しているのはなぜですか？

Ａ：　**私立大学だけでなく、国公立大学でも、後期日程の廃止とそれに伴う「推薦・総合型選抜」の定員枠の拡大が進んでいます。今後は募集定員の３割まで拡大する方針です。**これらは、一般入試の定員の削減につながるため、全員にとって大きな問題です。ゆえに、「推薦・総合型選抜」の存在価値は年々大きくなっていると言えます。これらの入試制度を有効に活用していくことは本校生にとっても、たいへん重要です。

ただし、**近年、全国の進学校の生徒が「推薦・総合型選抜」を利用しようとする傾向が高まっているので、年々、難易度が高まっています。特に今年度は激戦が予想されます。**